

現場の負担軽減に配慮

「この工事規模で試行する意義は大きい」。関東地方整備局企画部技術管理課の小林晃市課長補佐は、CIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）試行の初弾案件となる八王子南バイパス大寺田地区（その3）工事が近く着手することに大きな期待感を持っている。一般競争入

CIMの道筋

変わる発注者意識 ⑤

関東地方整備局

札で落札したのは沼田土建（群馬県沼田市）。「Cランク業者がCIMとどこまで向き合えるか。今後の普及の目安になるはずだ」

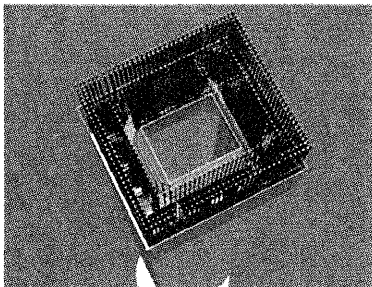
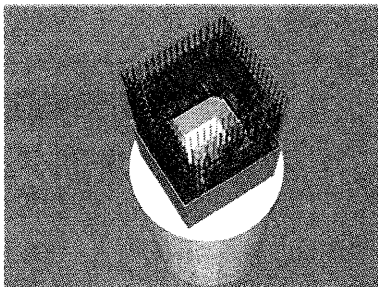
2012年度に実施した設計段階の試行業務は計3件。残り2件は14年度に工事発注するが、ともにCクラスもしくはBクラスの対象工事になる見通し。自主的に3次元モデルデータの活用を始めた大手・準大手ゼネコンではCIM専用の3次元ツールを一定程度保有しているが、中堅中小の建設会社にはまだ十分に普及していない。

CIMを試行する以前に、ツール自体をどう準備してもらうか。整備局は3月初旬に相武国道事務所、沼田土建との協議の場を設け、対応策を話し合っ予定だ。小林氏は「施工者が今後も使おうと決めて一式そろえるなら、問題はな

いが、対応しにくい場合には少しでもコスト負担を軽減できるようなアドバイスできれば」と考えている。

CIM関連のソフトウェアに加え、ハイスペックのパソコンまで一式そろえると、総額は百数十万円に達する。「工事期間中だけレンタルするやり方であれば、クラウド型のシステムを使い、コストを最小限に抑える手もある。施工者の意向を踏まえながら最適な選択をしてもらいたい」

協議の場では、工事のどの部分にCIMを使うか、その範囲も具体的に打ち合わせる。現時点では仮設計画の手順や鉄筋配置を3次元で確認するなどの使い方にチャレンジしてもらう方向だ。12年度の試行業務3件では施工ステップの作成にも力を入れてきた。あえてアニメーションで確認できる



試行業務では施工ステップの作成に力を入れてきた

まで精度を高めたのも、下請けとの打ち合わせに効果を発揮できると考えたからだ。

試行工事では、維持管理段階の

CIMを想定した課題抽出も並行して進める。設計段階に委託先の中央復建コンサルタンツから、外部リンクで属性情報を入れ込めるシステムを提供されており、これを他の試行工事にも広げる方針だ。高精度の3次元モデルはデータ容量が大きくなり、作業の使い勝手が悪い。後から属性情報をモデルに反映できるメリットは大きいと期待している。

10日には簡易公募型プロポーザルとして「平成26年度3次元形状情報を活用した建設生産システム普及検討業務」を公示した。委託先の建設コンサルタントには今後のCIM試行を見据えた関連データの整理や現場の支援方法などを求める。これまでに完了した3件の試行業務は14年度に残り2件が工事発注され、施工段階へのデータ受け渡し本格化する。小林氏は「受発注者ともに人材育成がCIM普及のかぎを握る。業務を通して、普及方策の知恵をもらいたい」と話す。

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中日 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| ⑬ 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工業 | | |

平成26年2月25日(朝)・夕) P1